

## 基礎科学紀要に寄せて 武蔵境校舎図書室の蔵書構築と利用統計

武蔵境校舎図書室

渡邊由美

2014年の新丸子から武蔵境キャンパスへの移転に伴い、日本獣医生命科学大学付属図書館と共同利用になった。その武蔵境校舎図書室はじまりの8年を退職で終えるにあたり、蔵書構築や貸出利用統計について述べておこうと思う。ちょうどこの8月に中央図書館で電子書籍のトライアルを行うことになり、これに収録されている単行書の受入調査をした。武蔵境校舎図書室でも2018 - 2020年を対象として図書館システムから受入図書と貸出回数を調べた。この際に移転した2014年から同様の調査をした結果を、関連する利用統計の一部や選書の過程と合わせて報告する。

表1：8月の受入図書調査

	日医年間受入冊数	貸出冊数	参考) 獣医年間受入数
2014年度	210	327	1184
2015年度	201	284	1219
2016年度	240	240	1219
2017年度	260	205	1156
2018年度	302	126	1062
2019年度	283	95	1048
2020年度	288	45	821
総計	1784	1322	7709

(2)

2014-2020年度の7年間の受入冊数は1784冊。参考に同じ集計をしてみた二学部四学科ある日本獣医生命科学大学（以下獣医大）は7700冊を越えていた（表1）。この最近の受入数、さらには蔵書数の差がある中でどのくらい日医大図書館の利用があるかに興味を持ち、月ごとに統計を取っていた。全貸出数に見るその利用は年間集計6%台で始まり、10%に延びた時期を経て8-9%を維持するようになっている。この受入図書調査期間での日医大図書貸出1322冊のベストリーディングをみると、初年度購入の『標準生理学8版』39回、ついで『ギャノン生理学（原書24版）』30回で（それぞれ2017年度、2019年度に新版も購入）、日医大では教科書販売対象資料で各自所持しているためか、獣医大生の利用がほとんどだった。獣医大でも購入しているが、2冊目として需要があったわけである。一方2020年度までの全貸出6万冊の内、日医大生は4500冊（7.6%）、このうち獣医大図書を62%利用していた。予算の関係もあり、武蔵境に来てからカリキュラムに加わった基礎医学系教科書や参考書はほぼシラバス掲載図書に絞っているため、獣医大受入の医学書で補われている。獣医大生が活用してきたレベル別英語リーダーも日医大生の利用がある。

## 貸出数と入館数の変遷

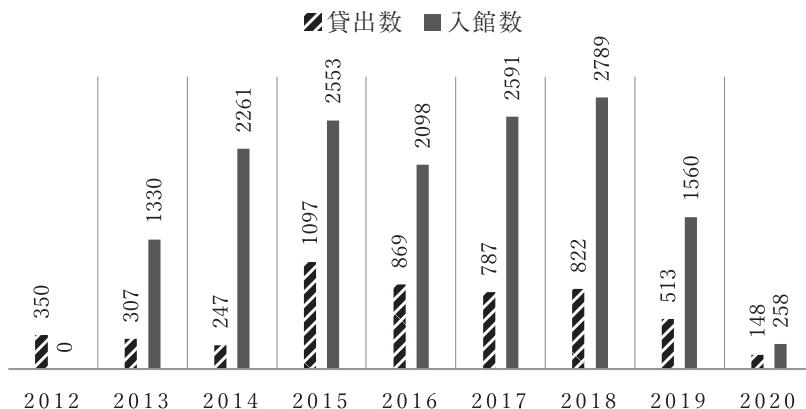


図1

次に医大生の貸出から蔵書構築としての選書を見る。化学、スポーツ科学、医学入門などが授業や課題のある月ごとに顕著な貸出数を見てきた。三学期の一大イベントであった「病と人、そして生と死について考える」特別プログラムはグリーンケアからダイバーシティ、当事者研究、ジェンダー、そして医療 AI と更新し、これに対する選書は図書室蔵書を育てきたと思う。課題図書として大いに利用された新丸子時代と比べ、二学期に移ったこのプログラムに対する貸出冊数は減ったが、年間貸出数全体は上回ってきている。入館数は図書館入口の入館システムを通すことで確実な数を積み重ねている(図1 2012年の入館数はカウントなし)。2019年度末から新型コロナ感染防止対策による登校禁止や短縮開館で減った図書館利用は対策緩和とともに回復するだろう。シラバスは Web 上で最新の状態でみられるよう整備され、図書室の選書にも役立っている。記載された新規参考書、改版チェックを年度初めに行い、合わせて各教室に選書依頼をして来た。いくつかの選書ツールから選択したリストも日頃から作成して推薦の参考に添付した。年度末には各教室、各授業のバランスをみるようにした。医学入門・特別プログラムを中心に生命倫理・医療哲学と並び重要な患者医師のコミュニケーションに関わる図書、大学生としてのスキルを身につける図書を揃えてきたつもりである。加えて社会に世界に視野を開いてもらえるように、科学一般だけでなくベストセラーや時事にも広げた選書は、書評紙や受入雑誌の書評から発注サイトの新刊案内と Web の情報も駆使してなかなか楽しかった。新型コロナパンデミック初期に選んだ澤田瞳子著『火定』(2017)は天平時代の天然痘パンデミックを描いた本で、ちょうど1年前に日本医学図書館協会機関誌『医学図書館』68巻1号(2021)にブックレビューした。日常業務の中でも多くを占める選書には、後任者にも力を入れてもらうつもりである。

以上が、はなはだ不十分であるが、これまで毎月利用集計をしながらの想いを含めた報告である。最後に、お忙しい日々の中で学生図書推薦にご協力いただいた教員の方々に感謝したい。どういう展開になるか予想もつかなかった共同利用であるが、座席数・蔵書数が格段に増え、開館時間も延びて、新一年生には良い環境になった。また獣医大図書か日医大図書かに関わらず、どちらの利用者にも戸惑いなく利用されているようだ。受け入れ体制を整えてくれた双方職員の方々にも感謝したい。

(4)

購入した後で映画化決定を知った『君の膵臓を食べたい』（2015）は貸出20回と教科書・参考書以外では多いものだったが、《膵臓》に食いついてくれるかと思った医大生より獣医大生に人気であったことが思い出される。新着図書案内はその都度ポスター型にして掲示をし、学生にはポータルで届けていた。高学年になった時にまたは研究の合間に、そういえば武蔵境にあんな本があったな、こんな本があるかもしれないと思いついてもらえる書架づくりができていたら幸いである。

（受付日 2021年12月29日）

（受理日 2022年 1月31日）